

クラス番号	619	担当教員名	保正友子
テーマ	地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーカーの役割を考える		
著書・論文 研究課題等	著書・論文：『保健医療ソーシャルワーク～アドバンスト実践のために』中央法規、『医療ソーシャルワーカーの成長への道のり～実践能力変容過程に関する質的研究』相川書房、「スウェーデンにおけるソーシャルワーカー養成と医療ソーシャルワーカーの業務」、「ノルウェーにおけるソーシャルワーカー養成と医療ソーシャルワーカーの業務」、「フィンランドにおける医療ソーシャルワーカーの業務」（2018年、2015年、2016年、全て『立正社会福祉研究』） 研究課題：医療ソーシャルワーカーの成長過程、北欧の医療ソーシャルワーク、社会福祉教育		

ゼミナール概要

キーワード：地域包括ケア、医療ソーシャルワーカー、理論と実践の結合

目的、内容、方法等：

現在、全国で、0歳から100歳までが住み慣れた地域で安心して暮らし医療が受けられる地域包括ケアが推進されています。そのため、医療ソーシャルワーカーには、子どもから高齢者までの多様な対象者に対して、総合的に対応できる力が求められています。また、地域包括ケアでは多職種連携が重視されており、医療ソーシャルワーカーにはその「コーディネーター」としての役割も期待されています。私のゼミでは、このような医療ソーシャルワーカーの役割について、文献検討・事例検討等の理論的学習に加えて、医療機関の見学や医療ソーシャルワーカーのゲスト講師の特別講義により、医療や地域包括ケアの現実に触れて学ぶことを重視します。

このような理論と実践の結合をはかるなかで、ゼミ生がソーシャルワーカーに不可欠な価値(規範)・知識・技術の基盤を身につけ、時代が求める利用者に寄り添いながら専門性もしっかり持ったソーシャルワーカーとして育つことを目指します。なお、4年次の就職活動、受験勉強、卒論執筆などを経て社会人として巣立っていくためにも、ゼミ生同士が相互にサポートしあえるゼミをつくりたいと思っています。その一環として、ゼミでの懇親会(ゼミコンパ)等を活発に行います。

授業計画：

- 3年次前期：医療専修で行う多職種連携のカンファレンスの準備を行うなかで、多職種の役割を学びます。
- 3年次夏休み：先進的な農村医療を行っている佐久総合病院での、藤井博之ゼミとの合同見学会を考えています。
- 3年次後期：文献検討・事例検討を行うなかで、医療ソーシャルワーカーの役割を学びます。また、この頃から卒論のテーマを考えていきます。
- 4年次前期：医療専修で行う合同企画の準備を行う傍ら、卒論執筆を行い各自のテーマを深めます。
- 4年次後期：卒論はできるだけ早く仕上げ、その後は、社会福祉士国家試験の受験勉強に専念し、全員合格を目指します。

なお、毎年前期と後期に一度ずつ病院・施設見学を予定しています。見学先としては、地域医療福祉連携部門が先進的な取り組みを行っている大規模病院、地域包括ケア病棟を有する回復期リハビリテーション病院、地域医療やホームレス支援を行っている診療所、医療や福祉機器の企業等を考えています。なお、関東地方の福祉・医療機関やハンセン病資料館の見学、教員が毎年行う北欧の福祉・医療視察への参加も可能です(希望者のみ)。

文献や事例検討の素材・ゲスト講師については、ゼミ生と一緒に考えます。各種イベント(日本医療社会福祉協会の全国大会や学生向けソーシャルワーク研修、千葉の亀田総合病院で開催される学生向けソーシャルワーク研修等)についてはその都度知らせます。希望者には、就職活動時のエントリーシートの書き方や小論文、面接のトレーニングも行います。

担当教員からのメッセージ



これまで、総合病院のソーシャルワーカー、老人保健施設のソーシャルワーカー、非常勤でホームレス支援の相談員を行った後に、大学でソーシャルワーカー養成に携わってきました。様々な活動とそこで学んだことの振り返りを大切にしたいと思っています。

今、関心があることについて、徹底的に掘り下げてみてください。そのなかから見えてくるものが必ずあるはずです。医療ソーシャルワーカーを目指していてもいなくても、自分らしく生きたい人、真剣に自分の将来を考えたい人は大歓迎です！